

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立外町小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を高め、学校行事に主体的に取り組み、自らの夢や目標に向け努力する児童の育成を推進する。今年度もキャリア教育講話を行い、キャリア教育の充実を図る。 保護者のアンケートの結果より、学校では、特に「温かい雰囲気や学級づくり」「やさしい言葉遣い」「児童の夢や目標に向け努力する」に重点を置いて取り組み、家庭と連携して「家庭での読書」「家族や地域でのあいさつ」を推進する。 校内研究のより一層の充実を図る。グループワークやクラスワークの場面での話し合いの持ち方に焦点を当てて研修を深める。 児童が安心・安全に学校生活を送ることができるように安全教育・防災教育の充実を図る。火災避難訓練や不審者対応避難訓練、保護者引き渡し訓練等を計画的に実施する。 若手教員が年々増えてきているので、初任者指導教員や初任研コーディネーターに働きかけ、若手教員向けの研修の充実を図る。
---------------	--

2 学校教育目標	『つよく』『かしこく』『あたたかい』外町っ子の育成 ～自ら考え、動く～
----------	-------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>①「学力向上」→算数科を中心に、「楽しく、面白い」「わかる」授業、そして「主体的・対話的で深い学び」の授業の実現を目指しながら、学力の向上を図る。</p> <p>②「心の教育」→児童の自己肯定感を高める活動を通して、自尊感情を高める。また、授業や学校行事等の教育活動において、「元気なあいさつ」「思いやりのある言葉づかい」の徹底した指導を行う。さらに、道徳教育や人権教育を通して心の教育の充実を図る。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		主な担当者			
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果				
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○図書室の貸出目標冊数を達成した児童80%以上	B	・学力向上対策シートを用いた研修を行うことができた。 ・全国学習状況調査の結果の共有・改善のための職員研修を行うことができた。 ・朝の読書タイムや読み聞かせなど、本に触れる機会を増やしたり、算数タイムを取り入れたりと取り組んできた。	A	・年度当初に今年度計画していた取組は実施を行うことができた。校内研で自習した講師に自分の考えを説明できるよう学習の工夫についても取り組むことができた。 ・朝の読書タイムや読み聞かせなど、本に触れる機会を増やすことで読書への意欲や興味が伸びた。貸出目標冊数も児童80%以上の子どもが達成できた。	A	・読書活動が推進されているのはとてもいいと感じる。読書を通して児童の学力と共に情操面も成長させてほしい。		
	○「主体的・対話的で深い学び」を実現した楽しく分かりやすい授業の実践	○授業に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	A	・昨年取り組んだ「どの子ども意欲的に授業に参加するための手立て」を取り入れた授業を全職員で行う。記述力の向上を目指す授業づくりを行い、よりよい意見をつくりだすための話し合いの仕方を研究する。	A	・低中学年部会で、1本ずつの授業研究会(講師指教)を実施した。全学年で記述力の向上や話し合い活動に関する手立てを講じた授業公開を、低中学年部会で行った。今後、事後研究会での意見を集約し、校内研究の成果と課題として、まとめていく。	A	・先生方が細やかな準備をして授業に臨んでいる姿がうかがえる。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生活ハッピーアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	B	・年間を通して、「自己肯定感の高まりから自他への思いやり」につながる人権集いを年3回設定する。 ・道徳に関するアンケートを実施する。	B	・学期に1回人権集会を行った。クラス中、そして異学年との交流の中で友達の良いことについて考えることから自他の良さを見つけることができた。また、長所だけでなく短所についてもフレージングをすることで、そのままの自分を受け入れ、自己肯定感を更に高めるためにICTの活用方法について研究していきたい。	A	・いろいろな課題がある現代社会ではあるが、人権意識を育てることは児童が成長していく中で根幹になると考える。これからも人権意識を育てる取組をお願いしたい。		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていないと回答した教員95%以上	A	・毎月1回、いじめの早期発見につながるアンケートを実施する。 ・毎週1回、気になる児童の情報共有の時間を設定する。	A	・生活ハッピーアンケートを実施し、いじめの早期発見につながり、生活タイムで情報共有を行った。また、週1回の子どもタイムで気になる児童や問題行動等の情報交換を行い、情報共有を図った。 ・組織的な対応ができていきと答えた教員、100%	A	・防止対策と共に、早期発見の取組が大切だと感じる。アンケートとそれに関する聞き取りは非常に効果があると感じた。先生方で共有されることも大切である。		
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよところを認めてくれていて、自分も頑張りたい」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	B	・授業や学校行事等を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・「まず、ほめる。ほめることから始める。」指導を行い自尊感情を育てる。 ・計画的に、学年に応じたキャリア教育を計画する。 ・キャリアパスポートの活用を継続し、将来の夢や目標を考えさせる。	B	・児童が目標をもって活動に取り組めるように、活動後には振り返りの時間を設け、自らの頑張りと友達のよい所に気付かせることができた。自尊感情を育てるために、教師が「ほめる」だけでなく、お互いの頑張りをほめる機会を設けた。	B	・コロナ禍の中でいろいろと実施できなかった行事・集いに、今年度は来賓として参加させていた機会が増え、嬉しく感じている。児童の意欲向上のためにも、行事・集いを大切にしてほしい。 ・キャリア教育で、地域の人材を積極的に活用してもらいたい。		
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒70%以上 ②児童の交通事故を0(ゼロ)にする	B	・長縄や竹馬など、児童の活動意欲を高めるための場や道具を整える。 ・体育委員の活動を通し、休み時間に取り組みたくなるようなチャレンジコーナーを作り、掲示する。 ・「さがんキッズスポーツチャレンジ」の取組を推奨する。 ・年間を通して、地域の方々とともに、職員も輪番で交通挨拶指導を行い、児童の安全意識を高める。 ・学年の実態に応じた交通安全教室を計画し、実施する。	B	・長縄や竹馬やフライング、柔らかなボールなどの貸し出し、整理整頓を行い、外遊びの意欲向上を図った。 ・交通安全指導を行い、児童の登校の様子を把握するとともに、児童の安全意識を高めた。 ・地域の方々と共に交通安全教室、地域に出て地域への交通安全啓発する交通安全パレードを実施した。1・2年は「安全な道路歩行」3～5年は「安全な自転車乗車指導」6年は「交通安全啓発パレード」を実施した。 ・保健部でジョギングタイムを設定し、体力の向上を図っている。	B	・体育委員と協力しながら遊び道具の点検やボールの空気入れをし、外遊びの意欲向上を図ったところ、外中庭で遊んでいる児童が増えた。 ・ジョギングカードを活用したところ、児童の自主的な体力の向上を図ることができた。 ・「さがんキッズスポーツチャレンジ」を周知し、各クラスが積極的に取り組むことができた。 ・学期初めの登校指導を地域の方々と共に行った。また、地域参加の風水害避難訓練を実施(6月)し、安全マップをもとに、登下校時の危険箇所など実際に確認しながら集団下校も実施した。	B	①保健体育部 ②生活指導部
	○食育の推進	○食の大切さに関する独自アンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上 児童の意識高揚につなげる。	B	・給食指導や家庭科等の機会、給食委員会の活動を通し、食の大切さに関する児童の意識高揚につなげる。	B	・各教室での給食指導、及び給食委員会で放送による啓発活動により、食への興味をもてるよう取り組んでいる。 ・5学年では、ゲストティーチャーによる「お魚教室」を実施し、地産地消を意識できるような取組を行った。	B	・各学年に応じた食育に取り組んだ。 ・食の大切さに関するアンケート結果が、「好き嫌い」等の項目において、全般的に唐津市の平均に対して低い傾向があるため、来年度はより一層の計画の取組みが必要である。	B	・2学期以降、給食のセンター移行を寂しく感じているが、問題なく給食が提供できていると聞き、安心している。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・時間外勤務…1か月について45時間未満 ・時間外勤務…1年について360時間未満 ・必要な会議、連絡会の精選や、計画的・効率的な運営・ペーパーレス化を図る。	B	・通勤時刻の設定をする。 ※月～木2.5時間(19:10 金1.5時間(18:10) ・月曜日～木曜日の最終勤務時間の自己申告を行う。 ・必要な会議、連絡会の精選や、計画的・効率的な運営・ペーパーレス化を図る。	B	・通勤時刻の設定により、機会があることに職員に周知を図り、だいぶ定着してきた。 ・職員会議での資料ボックスを作り、PDFでの資料提供を提案、浸透させた。 ・会議と連絡会をはっきり区別した運営を心掛けた。	B	・通勤時刻の設定により、在校時間の減少につながっている。ただし、個人差は大きいので、より一層、設定の遵守に努める。 ・会議・連絡会は予定時刻よりだいぶ前に終わり、事務処理の時間を確保できた。来年度も継続したい。	A	・先生方の健康維持が、児童のより良い教育環境を作ることに繋がると感じているので、これからも健康維持に努めていただきたい。 ・外町ボランティアを始め、保護者・地域とも連携して、業務改善の一助になるのであればいろいろと協力していきたい。
	○業務改善への意識の向上	○1年間で業務改善を3つ以上行う。	B	・業務改善についての職員研修を行う。 ・年休を取得しやすい雰囲気創り。 ・若手職員に業務の効率化につながる研修を行う。	B	・夏季休業中に、「ライフワークバランス」と「業務の効率化」について研修を行った。 ・年休の取得率は高いが、個人差はあるので、より取得できる方策を考えたい。	B	・年間を通した研修や声かけを通し、主に、教職員の意識の改革に主に取り組んだ。 ・年休の取りやすい雰囲気はつくりたい。 ・若手職員の在校時間が長い傾向があるため、改善していく必要がある。	B	・若手教職員が増えているのはとてもいいことであると感じている。仕事を行っていく上での若手育成の充実を図り、活気ある学校づくりにつなげてほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		主な担当者			
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果				
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育への意識の向上と支援のあり方の理解。	○特別な支援が必要な児童への支援のあり方の理解に関するアンケートで肯定的な回答の教員95%以上	A	・特別支援教育に関する研修会を年に5回実施する。 ・校内教育支援委員会を通して、情報共有を行う。	A	・全員参加の、講習招聘の研修会を実施した。 ・校内教育支援委員会を実施し、対策を話し合った後に全職員で情報共有をした。 ・支援が必要と思われる児童について、各担任が個別の教育支援計画や指導計画を作成した。	A	・講師招聘により、有意義な研修会をもち、実践に即した助言をいただいていた学校生活に活かすことができた。 ・校内教育支援委員会での情報共有により、児童の学校生活を見守り、支援することができた。 ・個別の支援計画作成で来年度への引継ぎができた。	A	・個別に対応していく児童が増えていて、学校側も大変だと感じているが、これからも体制づくりを引き続き行っていただきたい。
○学校教育目標の共有	○学校教育目標の児童・保護者・地域での共有化と、外町地域全体で児童の育成に関わるという意識の向上。	○独自アンケートで、学校教育目標を答えられる児童・保護者80%以上。	B	・学校だよりやホームページの更新を通して、学校教育目標の浸透を図る。	B	・まずは、職員が学校目標を意識できるように、学校目標に沿った個人目標を設定した。 ・児童・保護者へは、学級・学校通信を通して、定期的に浸透を図っている。	B	・学校目標達成に向けての自己評価を立てることで、職員の共通理解を図れた。 ・学校通信や学校ホームページでの発信は、定期的に行い、学校教育目標も児童・保護者共々浸透している。(肯定的な回答83%)	A	・今年度は、学校通信等で、学校の様子をよく知ることができて嬉しかった。来年度も引き続きお願いしたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>自己肯定感を高め、学校行事に主体的に取り組み、自らの夢や目標に向け努力する児童の育成を推進する。来年度も学年に応じたキャリア教育講演を行い、キャリア教育と志を高める教育の充実を図る。</p> <p>地域の人材、施設との交流を積極的に推進し、外町小学校区を誇りに思う児童の育成を図る。</p> <p>保護者のアンケートの結果より、学校では、特に「やさしい言葉遣い」「進んで読書」「食育」に重点を置いて取り組み、地域・家庭と連携して「家庭での読書」「家族や地域でのあいさつ」を推進する。</p> <p>校内研究のより一層の充実を図る。一人一台タブレットの活用を重点を置き、グループワークやクラスワークの場面での話し合いの持ち方とタブレット端末の活用法に焦点を当てて研修を深める。</p> <p>児童が安心・安全に学校生活を送ることができるように安全教育・防災教育の充実を図る。火災避難訓練や不審者対応避難訓練、地域防災訓練等を、家庭・地域と連携して計画的に実施する。</p> <p>若手教員が年々増えてきているので、初任者指導教員や初任研コーディネーター、初任者メンター、中堅教員等に働きかけ、若手教員向けの研修とメンターミーティングの充実を図る。</p>
----------------	---